

2023 年度

事業計画書

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

総合活動

I. 役員会等	・・・・・・・・・・	1
---------	------------	---

事業活動

I. 科学技術振興事業	・・・・・・・・・・	3
1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営保守支援		3
2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催		10
3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究		12
II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業	・・・・・・・・・・	12
III. 科学技術館施設の利用促進事業	・・・・・・・・・・	13
IV. 助成を得て実施する事業	・・・・・・・・・・	14

I. 役員会等

1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 常勤理事会の開催

2. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との各種連携を強化し、わが国の科学技術の振興に貢献することを目的にして立ち上げた会員制度です。財団活動を企業・団体を含むステークホルダーに対し積極的にPRすることにより、既存会員の維持と新規会員の獲得を目指します。

(2) 国民公園を活用した地域連携活動

環境省や国民公園協会等との連携活動により北の丸地区の特徴を活かし、環境と科学技術に関するイベントの企画、協力、実施を図ります。

3. 組織

財団の諸事業と組織が効率的に事業を推進させるため、柔軟に組織の変更ができるよう体制を整えます。

(1) 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修、タウンホールミーティング等を実施し、財団職員の育成強化を図ります。

4. 広報活動

財団の事業内容や活動状況をさまざまなステークホルダーに広く知らせ、認知を上げていく活動を推進します。

(1) 財団広報活動

財団諸活動情報をタイムリーに収集し、社会に貢献する財団の姿、活動成果の発信を意識して的確かつ効果的・効率的な広報を行います。

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行します。

(3) SNS やメール配信等による情報発信

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解

増進活動の参加募集などの新着情報を Twitter などの SNS やホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信します。

5. 新型コロナウイルス等感染症対策について

2020 年度より蔓延している新型コロナウイルス感染症対策を評価し、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を、適宜行います。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館で有る様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底していきます。

6. 建物スペース活用と新規事業開発による収益拡大施策の実施

科学技術館建物内のスペースの利用状況を見直し、業務の効率化を図るとともに、スペースを有効活用し、収益事業の拡大を図ります。

7. 教育と処遇制度などの人事・教育政策の実施

財団の活性化を実現するため階層別研修や室部を超え、財団の課題や各部の課題をテーマにディスカッションできる場を構築します。

また、同様に階層別研修として外部の教育ツールも活用し階層毎のコミュニケーション能力の育成を図ります。

8. 耐震化・老朽化対策の検討

科学技術館の老朽化は深刻な状況であり、耐震化・老朽化対策の検討を当年度に実施し、基本的な方針決定に向けた活動を実施します。

[事業活動]

I. 科学技術振興事業 (1,134百万円)

1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

1-1. 科学技術館の運営事業

新型コロナウイルス感染症と共存しながら科学技術館を運営する中、ステークホルダーに科学技術館を魅力ある施設と捉えていただくためには、その特徴をより鮮明化し他施設と差別化を図り、結果として科学技術館の入館者増（入館料収入増）に繋げることが重要です。そのため、展示の新設・更新・開発やイベント開催などの「(1) 科学技術館の直接的な運営に対する取り組み」、および既存のコンテンツやノウハウを提供する「(2) 他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み」の科学技術館の活動の二つの面を明確にして運営を進めてまいります。

(1) 科学技術館の直接的な運営に対する取り組み

①出展誘致と展示更新

1) 今後の展示更新の中期的方針

魅力ある科学技術館を維持するために、展示更新は重要な取り組みです。この展示更新のためには、助成金などを活用して展示を更新する、新規出展団体を発掘し産業センター出展（科学技術館各フロアの回廊エリアでの出展）を含め、出展誘致に取り組み展示を新設する、部員のメンバーによるオリジナル展示を制作し新設する、と大きく3つの柱があります。それぞれの方法で、最低一案件ずつ計画・実施します。

2) 助成金などを活用した展示更新

本年度の科学技術館の新展示として、量子技術が実現する未来社会について、子どもから大人までの幅広い世代が学べる展示室を整備します（一般財団法人日本宝くじ助成事業、日本電信電話株式会社出展協力）。量子力学を応用する量子技術は、産業と社会生活の様々な分野における情報処理、通信、セキュリティ、計測、センシング、マテリアル等の科学において、飛躍的な進歩が期待される未来の技術であることを訴えます。この展示によって、科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

3) 新規出展団体の誘致による展示新設

最近、さまざまな団体から産業センター出展の検討について問い合わせをいただいています。展示室開室のための出展団体誘致も行いますが、産業センター出展での新規団体の誘致を積極的に行い、展示の新設を推進します。

4) 科学技術館オリジナル展示物の開発・設置

近年の取り組みとして、技術的継承の目的を含め科学技術館スタッフによるオリジナル展示物の開発・設置を行っています。今年度も、スタッフ企画による科学技術館オリジナルのハンズオン展示物を低予算で開発し、展示エリアに設置していきます。

②特別展を含めたイベントの開催

1) 今後の特別展を含めたイベント実施の中期的方針

長期間開催するような特別展については、補助金・助成金を活用しながら開催することを計画します。短期的に開催する、外部機関からの企画持込・共催イベントや自主企画イベントの開催数を増やし、入館者数増に繋がられるよう積極的に取り組みます。

2) 2023年度特別展の実施

巡回展示「スポーツを科学する」のコンテンツを活用し、スポーツを科学的な観点から体験・体感し面白さを再確認することを目的とし、かつ、体験者自身の身体能力を測定できるコンテンツも展開した、「(仮称)サイエンススポーツ」と題した夏休み特別展をノエビアグリーン財団の助成事業として開催します。会場は2階イベントホール(団体休憩室)と、3階多目的スペースを活用して展開します。

3) 休止中のイベントの復活による開催増及び新規イベントの誘致

主にコロナ禍が要因で科学技術館館内でのイベント開催を自粛していた企業または団体に対してヒアリングを実施し、イベント開催の復活に取り組みます。同時に外部機関からの企画持込・共催イベント開催を積極的に取り入れ、イベント開催増に取り組みます。

また、出展団体や支援をいただいている企業・団体等、新たな分野の団体や企業と連携し、これまでに実施していないテーマを設定した、新規イベントを誘致して開催できるよう計画・実施します。

4) 演習スタッフ企画の館内ミニイベントの開催

展示室のワークショップ演習を行うスタッフのスキルアップを目的として、ワークショップ演習スタッフの企画によるミニイベントを館内で開催します。イベント内容は、通常ワークショップで演習している内容以外のものでも企画し開催できるよう、計画を立てて実施します。

③ 広報発信内容の見直し

これまでの広報内容は、科学技術館への来館者増を目的としたものがほとんどでありました。来館者増を目的とした広報発信は従来通り継続しつつ、科学技術館をドラマ・映画などの撮影場所など既存施設の有効活用のための情報発信など、認知度を高めるための情報発信にも新たに取り組みます。

また、出展誘致のために具体的な誘致場所例や、出展団体が検討しやすい資料の掲出などの情報発信にも取り組みます。

1) 入館者動向の分析

2022年の8月をもって、新型コロナウイルス感染症対策の事前入館予約制度を撤廃しました。入館予約制度撤廃後の入館者動向については、アンケート調査などを行い動向を分析する必要があるため、調査内容を計画及び調査を実施し、入館者の動向分析を行います。分析結果を、入館者増の施策に反映します。

2) 科学技術館 web ページや SNS などのインターネットツールを活用した広報活動

来館者増のために、展示更新情報や、特別展・各種イベントの開催については、情報発信頻度をより上げられるよう日々の情報収集に努め、科学技術館 web ページでの情報発信だけに留まらず、経営企画室と連携して、メールマガジン、twitter 等の SNS により常に最新の情報を発信します。さまざまな情報発信の頻度を上げることで、科学技術館に対する注目度を上げ、入館者増につながるよう取り組みます

3) 出展団体の広報の支援

展示室の出展団体が、展示室の展示効果を図るため、出展団体が意図する広報の依頼を受けます。展示室内の展示に組み入れる、新たに掲出するなどさまざまな方法がありますが、出展団体が意図する広報に協力することで、出展団体の認知を来館者に深め、展示をより理解いただく相乗効果が生まれるものと考えます。

出展団体の意図する広報の支援を新たに取り組みます。

4) 入館者誘致活動

学校団体による来館の時期がこれまでと変わってきている傾向があります。学校団体の利用履歴を分析し、時期ごとに変化する学校団体数の均一化を図れる計画を検討します。分析と計画により中期的な来館誘致活動を計画します。

5) 施設利用紹介の広報

科学技術館の既存の施設や設備の積極利用を訴求する広報内容を策定し、発信します。展示を体験することを目的として来館される、一般個人、学校団体の来館者以外に、撮影場所など、科学技術館の施設をビジネス利用で検討している企業・団体を誘致する営業活動も行います。

④新規事業への取り組み

2022 年度より科学技術館 5 階展示フロア FOREST、並びに 4 階大型映像・シンラドームのスポンサーが不在となり、自主運営をしています。運営費の獲得のため、FOREST にある展示室ごとにネーミングライツの獲得と、大型映像・シンラドームでの映像上映料などの獲得を目指します。

また、科学技術館をドラマや映画での撮影場所としてより多く活用いただき、知名度を上げるための施設貸出とその広報に取り組みます。

(2) 他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み

①他施設の展示設計業務等の受注

他施設の構想、計画、設計、製作、監理等の業務の受注を目指します。

②巡回展示物などの既存コンテンツ貸し出しなどによる収益拡大

当部には、10 種類のパッケージ化された展示物を、さまざまな施設に有償にて貸し出す、巡回展示事業があります。これまでさまざまな地域の科学館や博物館に貸し出しを行ってきましたが、ショッピングモールなど公的機関でない施設への貸し出しにも取り組みます。

1-2. 特別展・イベント等の開催

新型コロナウイルス感染症と共存しながらも、来館者に面白さを感じていただけるような特別展・イベントの開催は、来館者増の観点からも不可欠です。春休みや夏休みなど学校休暇期間には、開催期間が長い特別展を、開催期間が短いイベントは学校休暇期間と土日祝なども開催期間候補として開催を計画し、団体や企業と連携したイベントや、より規模の小さいイベントをたくさん開催できるよう、既存のイベントの実施以外に新規イベントの誘致などを積極的に取り組みます。

(1) 特別展開催

①夏休み特別展「(仮称)サイエンススポーツ」の開催

科学技術館所有のパッケージ展示物、「スポーツを科学する」を展開し、科学的視点からスポーツ競技・原理の体験、また参加者自身の身体的能力の計測を併せたスポーツ体験イベントを、「公益財団法人ノエビアグリーン財団」の助成を受けて開催します。

(2) イベント開催

①団体・企業との連携イベント

公益法人の集合団体である、「夢・化学-21」委員会主催の、『「夢・化学-21」なぜなに?かがく教室』、一般財団法人石炭フロンティア機構主催の「夏休み石炭実験教室」、中外製薬株式会社主催の「実験教室」など、団体・企業との連携イベントを開催します。また、新規団体・企業を開拓し、新規イベントを計画・実施します。

②既存施設(G棟)を活用したイベント

主に科学技術館G棟(回廊廻り)を会場として貸出し、「キャンドル工作(ミュージアムクルー)」、「ロボットプログラミング(ロボット教育)」、「ミニワークショップ(サイエンスエンタテイメント)」などのミニイベントも積極的に開催します。

1-3. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積されたコンテンツを、全国の科学館や博物館に積極的に提供し、活用いただけることを計画・実施します。

(1) 巡回展示物の貸し出し

本年度は、「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める!マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」の10アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、貸出先が企画展の位置づけで開催できるよう、調整・運用をしていきます。

1-4. 他館の運営

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学・技

術への理解増進ならびに知識の普及啓発に貢献します。

所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県委託事業）

わが国初の飛行場として1911（明治44）年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっています。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993（平成5）年に同公園内に設置されました。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・展示施工監理等を担い、その後開館以来29年間運営に携わってきました。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあたっています。

新型コロナウイルス感染症と共存する中で安全安心を最大限担保し、感染症の拡大を抑制するためのガイドラインを遵守・徹底したうえで、以下事業活動を実施してまいります。

(1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常の入館者対応、展示解説・実演等を行なうとともに、展示物の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施します。
- ②開館から29年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行います。
- ③埼玉県との連携のもと、展示館内実機のレイアウト変更、ローテーション等を計画・実施するとともに、県による設備交換工事計画の実施に協働します。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行い、展示や教育普及活動への応用ならびに効果的な活用を図ります。

(2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施します。
- ②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマを中心に、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たせるよう、老若男女が親しめる施設を目指します。
- ③まだ大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会等、シアター設備を活かした事業を適時開催します。

(3) 特別展の開催

- ①多くの県民・市民に広く航空機や航空への興味・関心の拡大・普及を目的とした特別展を計画・開催します。
- ②航空輸送、航空機製造、整備、航空管制など、すそ野の広い航空に関する分野の企業等との共同催事の計画・実施を通して、話題の提供及び興味・関心の拡大、そしてステークホルダーとの関係強化を図ります。

(4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

- ①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底します。
- ②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めます。
- ③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員配置、機械警備等、保安と安全管理に努めます。
- ④消防訓練が正しく実践につながる様スタッフの定期的訓練・教育と計画の見直し改善を繰り返すとともに最新の情報を共有します。

(5) 連携活動

- ①埼玉県、及び所沢市をはじめとする周辺の自治体・関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に計画していきます。
- ②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図ります。
- ③航空系博物館どうしの情報交換、展示物・収蔵資料の館間貸借、またそれらを基とした特別展の開催等に繋げていくため国内外の航空系博物館との積極的連携を図ります。

(6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大防止に繋がる各対策をはじめ、不測の事態への対応力と柔軟性を持ち、施設として本来の目的を維持達成できるよう対応策に努めます。

また、各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋がります。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には、固定休館日である月曜日も開館とするなど、利用機会の拡大と利便性向上を目的として柔軟で弾力的な取り組みを実施します。

(7) 広報活動

- ①展示館及び大型映像館に係る入館利用案内のほか、特別展開催情報やイベント開催案内等、常に最新の情報を発信します。また、余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力し、効果的な園内広報を実施します。
- ②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、近年利用者が増えているスマートフォンやモバイル端末への効果的なブラウズを目的に全面更新したウェブページを積極的に活用し、最新且つタイムリーな情報の発信に努めます。
- ③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のポータルサイト、コミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図ります。

④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、埼玉県内の博物館、国内の航空系博物館、また近隣の科学館とも連携し、広報物の相互配架を実施します。

(8) 普及啓発活動

①飛行機工作教室の実施

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室等を計画・実施します。

②「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学3年から6年生を対象として、「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた実験・工作・電子工作・自然観察・施設見学など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室形式として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供します。

③ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営します。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に開催し、既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促します。

(9) ボランティア活動の充実

記念館ボランティアの活動機会として、飛行機工作教室、YS-11 特別公開、常設展示解説や解説ツアー等を計画します。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより、航空への興味・関心に繋ぐとともに、地域との連携を深めます。

(10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

当館の附帯施設であり指定管理業務における自主事業であるミュージアムショップ及びカフェレストランを運営し、来館者・来園者に対するサービスの向上を図ります。

(11) その他の活動

①開館以来29年を経過したことで老朽化や情報劣化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕や情報更新を行い、品質の維持向上を図ります。また、埼玉県との相互連携のもと館リニューアル計画を協働して推進します。

②埼玉県による「施設の長寿命化計画」を協働して推進します。

③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、イベント等の共同開催を計画・実施します。

1-5. 教育文化施設に対する企画・開発支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行います。科

学技術館の運営を収益面で支える重要な事業として、収益の拡大を目指します。

(1) 企画開発業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる構想、計画、設計、製作、監理等の業務の受注を目指します。

2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発を図るとともに、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

2-1. サイエンス友の会の活動

2021年度より、年間入館パスポートを主体とし、特典として科学技術館内で開催されるさまざまなイベントにメンバー限定もしくは優先的に参加できる制度としています。

イベントは、小中学生向け、親子向け、大人向けと幅広い年齢層を対象とした実験教室や工作教室、さらにはシンラドーム等の館内の施設・設備を活用したイベントを毎月2回（夏期休暇時などには追加の場合あり）実施します。企業や団体等と連携した教室・イベントも計画・実施します。

2-2. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

①青少年のための科学の祭典全国大会（独立行政法人国立青少年教育振興機構助成事業（予定））

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的として、新たな出展企業等を募りつつ、7月に科学技術館で「青少年のための科学の祭典2023全国大会」を開催します。

会期：2023年7月29日（土）～7月30日（日）（予定）

②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約60の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

(2) 少年少女創造性育成事業の実施（公益財団法人市村清新技術財団委託事業（予定））

市村清新技術財団の主催による「市村アイデア賞」の受賞者を対象とした表彰式及び入選作品展を開催するとともに、小中学生を対象とし、複写機を題材としてその仕組みや原理の理解と実機の分解を行う「キッズ・フロンティア・ワークショップ」を2回開催します。

(3) STEM/STEAM教育プログラムの実施（ポーン社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができる STEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたサイエンスショー、ワークショップなどの STEM プログラムを実施します。また、STEM 教育に Arts の要素を加えた STEAM 教育に基づいたプログラムについても検討します。

2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピックの開催、国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

(国立研究開発法人科学技術振興機構支援事業(予定))

日本生物学オリンピックは、高校生等を対象とした全国規模の生物学に関するコンテストです。また、国際生物学オリンピックに派遣する日本代表選考を兼ねています。生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。

①日本生物学オリンピック 2023 の開催

日本生物学オリンピック 2023 は、7月に全国規模で行う予選に続き、静岡大学の協力を得て8月に同大学で本選を実施する予定です。さらに、2024年3月に代表選抜試験を科学技術館で行い、2024年にカザフスタン共和国で開催される第35回国際生物学オリンピックに派遣する日本代表4名を選抜します。

②第34回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

2022年度に開催された日本生物学オリンピック 2022 で選抜された日本代表4名を、7月に UAE で開催予定の第34回国際生物学オリンピック (IBO2023) に派遣します。

2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催

(公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業(予定))

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。

2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第64回科学技術映像祭の開催

科学技術週間の行事の一環として、4月に科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞をはじめとする各賞の表彰式と入選作品発表会を開催します。また、科学技術

映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学館等で実施します。

2-6. エネルギー・放射線等に関する理解増進活動

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、エネルギーや放射線等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

(1) 放射線に関する教職員研修及び出前授業の実施（文部科学省委託事業（予定））

学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修及び児童生徒等を対象とした出前授業を実施します。

(2) 放射線教育を支援するための情報提供事業の実施

放射線教育を行う教職員に対して放射線教育授業実践事例、放射線に関する資料等を提供するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための情報提供を行います。

(3) エネルギー・放射線教室の開催

「青少年のための科学の祭典」全国大会や地方大会、各地の科学館等においてエネルギー・放射線教室を実施します。

(4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい放射線教材を募集し表彰する「放射線教材コンテスト」を実施します。

(5) SDGs 教育プログラムの実施

「スピーカー工作による教育プログラムのモデル化推進事業」（フォスター電機株式会社協賛事業（予定））等のSDGsに資する教育プログラムを実施します。

(6) エネルギー教育活動を支援する事業の実施（資源エネルギー庁委託事業（予定））

学校でのエネルギー教育活動を支援する事業の実施を目指します。

3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

来館者や出展者へのサービス向上、誘致を踏まえて科学技術館の機能強化を目的に、来館者に対してアンケート等により展示や教育、運営に関する調査を行います。調査結果は現場に反映、活用するとともに、可能な限り科学教育学会、ミュージアムマネジメント学会等で発表し（2022年度の渡辺記念会科学技術調査研究助成事業の成果発表を検討）、科学技術館の博物館としての活動をPRします。

II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業（362百万円）

1. カスタマーサクセス（ビジネスモデルの改善、競争力の強化、よりよい労働環境）をもたらすサービスの提供に注力いたします。

(1) 職員の自己啓発のための目標管理制度とQMSにおける研修の受講推進活動を活用し、ITとビジ

ネスを融合できる人材の育成を行います。

(2) B2B2B において顧客と協業しての利用者数の拡大を行うため、教育関連顧客を端緒に、事業規模の拡大に伴い運用に係る業務がスケールする事業に注力いたします。前年度の実績と分析をもとにプロダクトの価値を最新化・最適化し続けるものとして、提案を含めた受注拡大活動を行います。

(3) 運用業務においてセキュリティを強化するとともに、サービスの向上と単価の向上を図ります。

(4) DX、ICT の潮流の中、顧客の情報システム部門としての業務の提案・受注活動を実施いたします。

2. リモートワークの利点を活かし活動対象エリアを拡大いたします。従来顧客先常駐でなければできなかった案件に対し、リモートワークでの活動を提案し受注に努めます。また、エリア戦略として既存顧客の各地の支店等あるいは地理的に近接していない見込み顧客を開拓し、受注提案活動を実施いたします。

3. 公益部門との連携を通じシナジー効果を図ります。財団内の公益部門のデジタルライゼーションを推進いたします。そこで開発・導入したシステム、ノウハウ等は将来的にパッケージとして販売することを視野に入れます。あわせて、各種交流組織への参加を通じて新規顧客を開拓いたします。

4. 顧客との協業として、新規事業・商品を開発するための提案・企画に係る活動を実施いたします。

5. 組織の体制とマネジメントプロセスの安定化をはかります。提案、受注活動において PDCA サイクルを回すために先行指標を活用し、パイプライン管理を行います。

Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業 (370 百万円)

科学技術館の施設は、公共性が高いため、入館者の新型コロナウイルス感染症対策を含め、安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

1. 建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせてレストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

継続的に収益を確保するためにも、施設利用顧客には公教育貢献の一助となっていることをご理解頂

き、財団の価値を広く周知します。

IV. 助成を得て実施する事業（予定）

2023年度は、一般財団法人日本宝くじ協会、公益財団法人日本財団、独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益財団法人東京応化科学技術振興財団、公益財団法人ノエビアグリーン財団より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の各助成事業の採択及び助成金の交付内定通知に伴い、事業内容及び申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

1. 一般財団法人 日本宝くじ協会 宝くじの社会貢献広報事業

(1) 量子技術が実現する未来社会を学ぶことができる展示室の整備

①申請額

助成金	30,000 千円
自己資金	30,000 千円
<hr/>	
事業費総額	60,000 千円

②事業概要

科学技術館の新展示として、量子技術が実現する未来社会について、子どもから大人までの幅広い世代が学べる展示室を整備します。量子力学を応用する量子技術は、産業と社会生活の様々な分野における情報処理、通信、セキュリティ、計測、センシング、マテリアル等の科学において、飛躍的な進歩が期待される未来の技術であることを訴えます。この展示によって、科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

2. 公益財団法人 日本財団助成事業

(1) 「火災から身を守るための防災・技術を紹介する」巡回型展示物の制作

①申請額

助成金	7,540 千円
自己資金	1,890 千円
<hr/>	
事業費総額	9,430 千円

②事業概要

現代では日常的に火災発生ニュースがテレビなどで報道されています。防災訓練の実施や火災が発生しやすい時期に注意喚起を行っていますが、市民の防災意識を高めるためには火災発生の科学的な視点による知識の取得、消防現場における新しい技術のさらなる周知の必要性を感じます。いざ火災が発生したときに、自らの命を守る行動を正確に行えるよう、「火災から身を守るための防

災・技術を紹介する」巡回型展示物を整備します。火災発生のメカニズムから、今日における技術革新がもたらす消防活動までを一連の流れとして展示物を約 25 点、解説パネルを約 14 点制作し、日頃からの防災意識の向上と、有事の際に身を守る行動が適切に行えるよう普及啓発を図ります。また、2024 年春に科学技術館内でミニ特別展を開催します。

3. 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

(1) 青少年のための科学の祭典 2023 全国大会

①申請額

助成金	6,000 千円
自己負担	2,207 千円
<hr/>	
事業費総額	8,207 千円

②事業概要

参加体験を基本コンセプトとして、子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

4. 公益財団法人 東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

①申請額

助成金	300 千円
自己負担、参加費	500 千円
<hr/>	
事業費総額	800 千円

②事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年 2 回（1 回当たり 4 分野の講座、1 日 2 分野を 2 回、計 8 講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

5. 公益財団法人 新技術振興渡辺記念会 科学技術調査研究助成事業

(1) 科学館における仮想空間を活用した学習の手法・あり方に関する調査研究（仮称）

①申請額

助成金	2,990 千円
自己負担、参加費	10 千円
<hr/>	
事業費総額	3,000 千円

②事業概要

科学館における仮想空間を活用した学習について、その効果とともに、「仮想空間の技術を活用して、どのような社会に発展させて行くか」を伝えるための手法やあり方を、教育プログラムの試行と意識調査、技術動向調査により考察します。

6. 公益財団法人 ノエビアグリーン財団助成事業

(1) 特別展「(仮称)サイエンススポーツ」の実施

①申請額

助成金	2,880 千円
自己資金	0 千円
<hr/>	
事業費総額	2,880 千円

②事業概要

科学技術館所有の巡回展示物「スポーツを科学する」を展開し、科学的視点からスポーツ競技・原理を体験することで、通常のスポーツ体験とは異なったスポーツの面白さを再確認する特別展を開催します。同時に、体験者自身の身体的な能力の計測ができる計測コーナーも展開し、全体をスポーツ体験イベントとして構成します。

(注)上記の内容は申請時点のものです。